

令和8年美濃加茂市教育委員会 6月定例会 会議録

1 開会日時及び場所

令和8年6月25日(木)午後4時00分から午後5時20分まで
生涯学習センター2階 202会議室

2 出席者

(教育委員)

教育長 梅村 高志
委 員 武田 由美
委 員 渡邊 博栄
委 員 安藤 摩里
委 員 榑間 月絵
委 員 中西 東峰

(事務局)

教育総務課長 伊藤 浩申
学校教育課長 高橋 泰行
教育センター次長 井上 貴弘
教育総務課課長補佐 太田 文生

3 欠席者 なし

4 開会 午後4時00分

5 議事日程等

(1)教育長あいさつ

(2)会議録署名委員の指名

(3)会議録の承認について

○5月定例会会議録

(4)

協議・報告事項

- ① 熱中症等の健康被害対策の推進等に関する協定の締結について
- ② 教育委員会行事予定等
- ③ 教育センター事業報告

(5)その他

会 議 録

(1)教育長あいさつ

梅村教育長

皆さんこんにちは。本当に足元の悪い中、ご多用の中、ご参加いただきましてありがとうございます。

本日の会議ですが副教育長が欠席ということ。それから高橋課長ですが、ちょっと別の会議からこちらに向かっていますので少し遅れてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

暦は間もなく文月ですけれども、いよいよ学校はあと3週間ほどで夏休みを迎えます。ちなみに、今年度から夏休み明けのスタートが9月1日となります。先週末から、中学校では中体連の地区大会が始まりました。台風の動きが少し心配されますが、子どもたちには何とか良いコンディションの中で力を尽くしてもらいたいと願っております。

そんな中先日、陸上の井戸アビゲイル風果さんが来庁されました。市民栄誉賞の第1号になられたというニュースは、子どもたちをはじめ市民に大きな勇気を与えてくれました。世界に向けて彼女のさらなる飛躍を心から期待したいと願っております。

開会に先立ちまして、私から4点ほど、ご報告と紹介を申し上げます。

1点目です。山之上地区の教育の方向性についてでございます。

少子化が進む中であって、市では特色ある教育活動を通じて小規模校の魅力を一層高めることに注力しております。子どもたちや保護者に多様な学びの選択肢を提供することを目的に、いわゆる里山特認校制度というものの導入に向けて現在協議を進めております。

これは、山之上ならではの教育に共感いただき区域外から子ども園に通う園児あるいは保護者の方々に、山之上小への就学を認めるという制度でございます。後ほど、学校教育課長よりもう少し詳しくお話をさせていただきます。

2点目です。地域や企業の皆様からの様々なご支援についてであります。

1つは、一昨日の朝刊でも取り上げていただいておりますが、地域の間宮様から学校図書館の充実に役立ててほしいということでご寄付をいただきました。今年度が8年目となりまして、今回の東中で市内全てに間宮文庫が整うことになりました。昨今の活字離れが心配される中で、子どもたちに良質な本を届けることで読書の魅力が一層広がることを願っております。

それから、猛暑への対応が喫緊の課題となっておりますが、市では昨年度に引き続いて暑さ対策の一環として新たな試みを考えております。

1つには、民間企業とのタイアップにより遠距離通学者の多い一部の小学校の中にウォータースタンドという冷水器を無償で設置することになりました。各校1台です。これも後ほど教育総務課長から補足をいたしますが、いずれも学校教育が地域や企業の方々に支えられているという感謝をもって、こうしたつながりを一層大事にしていきたいというふうに考えております。

3点目です。次年度の人事異動を見据えた県教育事務所による市内各校への人事管理訪問というのが今週から始まりました。

今日までに古井小、蜂屋小、伊深小、そして先ほどまで私も参加をしておりましたが、太田小学校がちょうど終えたところでございます。各校長先生から経営ビジョンであるとか重点的な取り組みについて説明を受けたところですが、いずれも校長としての明確な方向性が示されて、職員の皆さんが一丸となって教育活動に取り組んでおられる。その様子を目の当たりにして大変心強く感じたところでございます。

授業参観では、総じて子どもたちがのびやかに、そして落ち着いて学びに向かっておってくれる姿を見て、本当に成長の跡を感じた次第です。

一方で、指摘を受けた諸課題もございます。そうしたところについては、教育委員会の立場から、しっかり学校現場に寄り添って一つずつ改善をしていきたいというふうに考えております。なお、この訪問は7月10日まで続きます。ご承知おきください。

最後、4点目です。先日、東京都内で発生しました小学校の校舎の火災についてです。

あってはならない事態に私どもも危機感しかございません。報道以上の情報はありませんけれども、ただただ子どもたちの命が守られたことが救いでございます。本市においても、火災とか地震を想定した命を守る訓練を実施しておりますが、この機に今一度このことを他山の石として、早急に各校に対して安全管理体制であるとか初動対応の確認を校長会・教頭会を通じて指示をしたいと考えております。

なお、昨日から消防署の方々も各校を回っていただいて、聞き取りとか点検を進めておっていただけるようです。今後、緊急避難などの備品の設置についても十分検討していかなければならないと考えております。

いずれにしましても、子どもの命と安全を守りきることが教育活動の大前提でございます。来る夏休みの生活も含めて、緊張感のギアをぐっと上げて指導にあたっていきたいと考えております。

委員の皆様には、引き続いてそれぞれのお立場からご示唆をいただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから美濃加茂市教育委員会令和8年6月定例会を開会いたします。

(2)会議録署名委員の指名

梅村教育長

はじめに、次第の2、会議録署名委員の指名を行います。美濃加茂市教育委員会会議規則第14条第2項の規定により、令和8年6月定例会会議録の署名者は、榎間委員にお願いしたいと思います。

榎間委員

はい、承知しました。

梅村教育長

どうぞ、よろしくお願いいたします。

(3)会議録の承認について

① 5月定例会会議録

梅村教育長

続きまして次第の3、会議録の承認を行います。
5月定例会の会議録につきまして何かご意見等がありますでしょうか。
意見がないようですので、承認ということでお願いいたします。

(4)協議・報告事項

① 熱中症等の健康被害対策の推進等に関する協定の締結について

梅村教育長

それでは次第の4、協議報告事項に入ります。
はじめに、熱中症等の健康被害対策の推進に関する協定の締結ということで、教育総務課長、報告をお願いします。

伊藤教育総務課長

それでは資料の13ページをお願いいたします。
はじめに、ウォータースタンド設置に関する協定の概要について説明いたします。先ほど教育長からもお話がありましたように近年の酷暑を受けまして児童の熱中症対策を検討している中、ウォータースタンド社より6月30日から1年間、無償レンタルのご提案をいただきました。
特に、できるだけ多くの児童にご活用いただきたいとの趣旨で、通学距離が長い児童が多く在籍する太田小、蜂屋小、下米田小の3校へマイボトル用給水器を各1台ずつ、合計3台を設置することが決定いたしました。この設置は、ウォータースタンド社と美濃加茂市並びに美濃加茂市教育委員会の3者による協定に基づく設置となり、マイボトルへ冷水を給水できるタイプのウォータースタンドとなります。
資料13ページがその協定書の内容となります。
第1条をご覧ください。今回の協定の目的は、3者が協力し、水分補給促進による熱中症予防、児童の健康維持増進、マイボトルの活用促進を通じた環境教育の機会創出を目的としております。第2条では、甲乙、つまり美濃加茂市と美濃加茂市教育委員会の取り組みとして、熱中症予防及び環境教育の推進等を記載しております。第3条は、ウォータースタンド社の取り組みとして設置する3校等々を掲載しております。第4条は、有効期間として協定締結日、こちらは6月30日からですが、1年間であることが書かれております。
次の14ページをお願いします。上段、第5条では疑義が生じた場合の対応について、また、下段では3者の代表者による署名欄となっており、6月30日に協定締結式を行う予定です。
続けて、15ページの覚書をお願いいたします。
協定書を補足する詳細がこちらに記載されております。その中でも、第4条をご覧ください。設置期間中の点検・修理・フィルター交換をウォータースタンド社が実施することとしております。
次ページをお願いいたします。第6条では、今説明いたしました点検等の費用はウォータースタンド社が負担し、市や教育委員会は光熱水費のみの負担としております。以上が今回の協定の主な内容です。

併せて児童の熱中症対策に関連する記者説明会を6月30日に行います。それにつきまして関連がございますので、別紙の方でお配りしております、児童の熱中症対策に関する記者説明会という資料をお願いいたします。

まず上段をご覧ください。児童の熱中症対策に関連し、6月30日、来週となりますが、火曜日の午後2時半から午後4時まで生涯学習センター203におきまして、新聞社等に集まっていただきまして記者説明会の開催を予定しております。

当日は、記載のとおり3部構成で実施いたします。第1部がウォータースタンド株式会社との協定締結式。第2部がひんやりスポット事業所の募集。第4部がバイオデータバンク社からの寄附物品の授与式となります。詳細については下段から説明いたします。

第1部につきましては、先ほどご説明した内容と重複しますので、割愛をいたしますが、ウォータースタンドと書いてある右下に画像がついておりますが、このようなタイプの機器を設置する予定です。先ほど言いました3校に設置する予定です。こちらは冷水が出るタイプでして容量が7リットルとなっております。

裏ページをお願いいたします。はじめに、上段の「ひんやりスポット」の事業所の募集となります。昨年度から美濃加茂市教育委員会で取り組んでおります「ひんやりスポット」の現状の説明と募集を行う予定です。

今年度は、新規事業所の募集に力を入れております。商工会議所の会員が集まる会合での依頼や市議会議員さん等からのご紹介や我々職員も通学路を確認し、募集活動を行っております。その甲斐もありまして昨年度まで民間事業所は12カ所でありましたが、今年度7カ所増加して、現在までですが合計19カ所となっております。引き続き募集の強化を図ってまいりたいと考えております。

下段をお願いします。第3部は、バイオデータバンク社から企業版ふるさと納税制度を活用して熱中症対策用ウォッチをご寄附いただけるということになりましたので、受領式を行います。こちらのウォッチですが、文化の森で行う学習活用の機会に装着して活用することを予定しております。こちらのウォッチですが着用中の体温データから熱中症のリスクを検知し、音、光、振動で警告をするものとなっております。

こちらの第3部の担当については、文化振興課と企画課で行う予定です。

以上、今回の給水器の設置に関する協定の内容及び関連しまして児童の熱中症対策についてご説明をさせていただきました。

以上でございます。

梅村教育長

ありがとうございました。

それでは、一旦連絡事項を続けさせていただきまして、後ほどお尋ねであったり、ご意見等を頂戴できましたら幸いです。

② 教育センター事業報告

梅村教育長

学校教育課長がまもなく来ますので、その前に井上センター次長より報告をしてもらいます。

井上センター次長

はい、よろしくお願いいたします。

6月7月の教育センター事業の報告をいたします。よろしくお願いいたします。

お手元にございます、美濃加茂市教育センターの資料をご覧ください。

1つ目、研修研究事業です。まず、教員の専門性向上と若手育成のための研修・研究事業についてご説明いたします。

1ページ目をご覧ください。6月の研修・研究事業です。6月は各担当者会や研修会を実施いたしました。特に、6月11日の教頭研修では、蜂屋小学校の林校長先生から「教頭に期待すること」と題した講話をいただきました。管理職としての心構えを深めました。また、6月18日の若手教員向けのヤング研修では、教育実践研究論文の書き方を指導し、自らの実践を客観的に評価し発信する力を養いました。

7月の見通しと夏休み研修講座です。7月には初任者研修として、文化の森や山之上浄水場、そして美濃加茂市の外国人児童生徒教育の拠点であるのぞみ教室を訪問します。これは、美濃加茂市の地域特性や多文化共生の現状を深く理解し、教育実践を生かすための学びの機会となります。

さらに、夏休み期間中には、教育専門性向上を目的とした多彩な研修講座を企画しています。全部で7講座になりますが、授業改善、特別支援教育、ICT 活用といった教育現場が直面する喫緊の課題に対応した研修を行います。

3ページ目をご覧ください。1つ目の黒四角は先ほど説明いたしました初任者研修の詳細になります。

2つ目の黒四角のタイアップ研修について説明いたします。今年度も各小中学校と連携したタイアップ研修を実施いたします。これは各学校の校内研究会と連携し、授業研究校を通して教員の指導力向上を図るより実践的な研修になります。これらの研修を通して美濃加茂市全体の教育力の底上げができるように努めてまいります。

4ページ目をご覧ください。次に児童生徒・市民への支援事業についてご説明します。プログラミング講座、8月5日、6日にはみのかも文化の森研修室で夏休みわくわくドキドキプログラミング体験講座を実施します。これは、情報化社会を生き抜く子どもたちの論理的思考力や創造性を育む重要な機会となります。今年度も募集をかけたところ、昨年度以上に申し込みがありました。2日間で60名の定員のところ130名以上の応募がありました。

教育研究会関連事業になります。科学社会科作品展です。9月5日、6日にはみのかも文化の森にて作品展を開催いたします。9月6日には表彰式も行います。子ども展はまだ先になりますが、12月11日から13日かけて予定しております。

最後に6ページ目をご覧ください。発達相談特別支援関連事業についてご説明いたします。

あじさい発達相談、巡回発達相談の状況になります。あじさい発達相談では、6月19日現在で小学校7件、中学生1件、計8件の相談に対応しております。夏季あじさい子育て相談会になりますが、7月21日から24日までの4日

間、年長児を対象とした夏季あじさい子育て相談会を教育センターにて開催いたします。今年度は83件の申し込みがあり、昨年度の62件から21件増加しました。これは保護者の皆様の関心が高まっていることの表れだと認識しております。

この相談会は、保護者の皆様の不安を軽減するとともに、お子様の発達特性を早期に把握し、小学校入学に向けてスムーズな移行を促すための重要な機会です。また、保護者と小学校との顔つなぎの場としても機能し、入学後の支援につながる貴重な情報共有の場となります。

また、巡回発達相談では、小学校では16件、中学校で6件の予定が今後組まれております。各学校への積極的な支援を継続しております。専門的知見から具体的なアドバイスをを行い、学校現場における特別支援教育の充実を図っています。

医療的ケア運営協議会になりますが、7月14日に予定しております。学校保健会の校長先生、養護教諭代表、中部国際医療センターの小児科医、可茂特別支援学校の保健主事の皆様にご参加いただき、医療的ケアの必要な児童生徒が安心して学校生活を送るための具体的な支援体制や連携方法について協議いたします。全ての子どもたちがこの特性に応じた適正な支援を受けながら、安心して学び、自己肯定感を育み、豊かな学校生活を送れるよう、きめ細かなサポートを今後も推進していきます。

最後になりますが、お手元にある冊子になりますが、今年度の教育センターの要欄が完成いたしましたので配布させていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

梅村教育長

はい、ありがとうございます。

井上次長さんちょっと確認をさせてください。わくわくドキドキプログラミング体験講座、これ大変好評で、定員に対して大幅な応募があったとお聞きしましたが、60人に対して130人。これって参加はどうなってくるんですか。

井上センター次長

昨年までに参加した子たちは、申し訳ございませんが後でというふうで、まだ体験していない子たちを優先させて厳選なる抽選を行います。担当者の方で、各校ゼロにはならないように抽選をいたしまして参加の人数を決めてまいります。

梅村教育長

それからですね、後段に説明があったあじさい発達相談とあじさい子育て相談会とそれから巡回発達相談。言葉がよく似ていますが、それぞれどういう違いがありますでしょうか。

井上センター次長

あじさい発達相談の方なのですが、センターの方にご電話をいただきまして電話対応させていただいております。特に、学校からの先生方の悩みも含めまして、そういった発達のお悩みになっていたり相談したいことなどを相談させていただいております。また保護者からの発達の悩みです。そういったものにもセンターの特別電話のほうで対応させていただいております。

夏季あじさい子育て相談会につきましては、年長を対象にしまして、各学校の特別支援の先生方にも参加していただきまして、7月21日から24日までです。これを、先生ごとに部屋を4つ、5つに分けて、基本的には校区の子どもたちの親さんの相談に乗らせていただくというふうな夏季子育て相談会になります。

最後の巡回発達相談になりますが、これは各学校から実際にお子様を見てほしい、生徒の児童の様子を見てほしいというような依頼を受けまして、各学校に訪問をしながら、子どもの授業中の様子や普段の生活の様子をお聞きして、今後の学校生活についてのアドバイス、または就学支援についてのアドバイスをを行うというような相談体制になっております。

梅村教育長

ありがとうございました。

それでは、一旦ここで報告事項を切りまして、先ほどの暑さ対策、それから教育センターからの報告につきまして、お尋ねやご意見等いただいて、学校教育課からは後ほどとさせていただきます。

何なりと所感をお寄せください。

渡辺さん、何か。

渡辺委員

じゃあすいません、1つお願いします。

ウォータースタンド株式会社という会社の概要とか規模感というのは、もし分かれば教えていただきたいです。

伊藤教育総務課長

本社は埼玉県さいたま市にございまして、名古屋にも東海支社が、岐阜にも岐阜営業所というのがございます。特に暑い日が続きますので、企業さんのオフィスとかにも、こういった給水器を入れる事例が増えているようです。参考までになんですけども、自治体としてこのウォータースタンド社の給水器を入れるのは県内初です。そして、教育委員会として協定を結ぶのは東海地区初ということを知っておりますので、その辺を入れながら記者説明会を進めていきたいと思っております。

特に、このウォータースタンド社、SDGs とか環境教育ということで特にペットボトルをできるだけ使わないマイボトル給水器ということで説明させていただいたんですけども、子どもたちが持っている水筒に注ぐことで、できるだけペットボトルを減らしましょうというようなことを会社の理念として掲げているということを伺っております。

渡辺委員

ありがとうございます。

質問したのは、いろんなウォータースタンドというものが多分、何社か作っている会社があるだろうけれども、なんでこの会社なのかという興味があったので質問させていただきました。SDGs とか環境教育というところでなんとなくわかりました。ありがとうございます。

1年間の無償レンタルということでご支援いただけるというのは大変ありがたいと思います。それ以降のことは実施してみても効果を見てだと思わなくても、どれぐらいの費用がかかるのか、メンテナンスとかも市で所有するよ

うになると、またコストがかかると思うんですけれども、その辺の費用感というのは分かっているでしょうか。

伊藤教育総務課長

ありがとうございます。1台同じタイプのものを有償で行う場合は1月7700円になります。12か月ですと約9万円ぐらいになります。もし有償でやろうとすると、それぐらいのコストがかかってきます。

あとは今おっしゃられた通りでして、やはり1年間は無償でレンタルして使えるんですけれども、その後どうするかというのは、今回レンタルさせていただいた結果を踏まえて、また来年度予算の要求の時期もありますので、今年度のどこかのタイミングでは見定めたいと思います。特にこのタイプの1台で太田小学校、蜂屋小学校、下米田小学校の児童さんがどのように使うのか、果たして1台で足りるのかどうかとか、そういったことも含めて検討していきたいと思っています。この後ウォータースタンド社と引き続き有償でやるというものではなくて、あくまでもリセットして、給水器が果たして市の暑さ対策として有効であるかどうかということを検証していきたいというふうに考えております。

梅村教育長

ありがとうございました。
中西さんいかがでしょうか。

中西委員

今お聞きして分かりました。
3校が次は6校になってくるのかと思いましたが、今の検証ということで。ありがとうございます。

梅村教育長

ありがとうございました。
安藤さんいかがですか。

安藤委員

ありがとうございます。
わくわくドキドキプログラミング体験に関して、応募が増えているということがすごいことだなと思うんですけれども、せっかくなので希望者みんなが受けられるぐらいの予算を取っていただいた方が、やっぱりこれからの時代、小中の時に体験していかないと。今、うちの子は高校生でそういうプログラミングの講座を受けているんですけれども、中学生から社会人まで受けていいよというネットで受ける週1回のオンラインの授業なんですけれども、中学生の子も実際参加しているんです。社会人と一緒に勉強できてしまう。でも、その子はきっと小学校のうちにそういう体験をしていて、興味がある人はやっぱりどんどん勉強できるものだと思うのでやらせてあげたいなと思います。

井上センター次長

ありがとうございます。
今年度も、小学校2年生ぐらいの低学年から興味を持ち始めているので、参考にしながら来年の計画を立てていきたいなというふうに思っています。
今年度参加できない子たちにも、何かしらこういったことをやったというようなことも伝えながら、また次年度に向けての興味付けをしていきたいなと思います。

梅村教育長	もし分かれば、このプログラミング講座の中身ですね、どんなようなことを子どもたちは体験するのかというイメージを持てるといいなと思ったんですけど。
井上センター次長	分かりました。次回の教育委員会とかでお話させてもらってもよろしいですか。
梅村教育長	お願いします。よろしいでしょうか。 榊間委員さん。
榊間委員	ありがとうございます。 私たちの子どもの頃は学校に給水器とかがあり、いろいろ衛生上の問題があってなくなってきましたが、やっぱり技術もいろいろ変わってきているだろうし、皆さんを助けられることならいいのではないかなと思います。 ただ、年間必要かどうかがちっとわからないですね。夏季には特に必要だけど、レンタルってなるとやっぱり年間通じてということになるのかな。
伊藤教育総務課長	契約としては、月で入ったりやめたりということがなかなかできないです。
榊間委員	そういうところも難しいかなと思いながら聞かせてもらっていました。いろいろ対策を取れることはこれからも大事だなと思うので。
梅村教育長	ありがとうございました。 武田委員お願いします。
武田委員	給水器の話ばかりで申し訳ないですけども、基本的には水道水は普通に飲料水として飲める形で、飲料水は飲料水で確保できているという状態で、冷たいものがあった方がいいということでのウォーターサーバーということですね。
伊藤教育総務課長	そうですね。今回は冷水タイプということで。1時間経つと完全に冷えるんですけど、30分くらいでもやはり常温水に比べるとかなり冷たい状態にはなってきます。それを、例えば体育の終わった後とかですね、下校の時にちょっと汲んで、冷たいものを飲んでいただいたりとか、そういった活用を検討しております。
武田委員	わかりました。ありがとうございます。 7リットルだと、人数的には限られてしまうのかなとは思んですけども、少しでも冷たい方が子どもたちは喜ぶかなと思います。ありがとうございます。
梅村教育長	ここまではよろしかったでしょうか。
渡辺委員	もう1つだけ。

梅村教育長

武田委員のご質問とちょっと重複するかもしれませんが、現状はマイボトルということで水筒を持ってみんな登校していると思うんですけども、水が足りなくなるという状況が多いということでしょうか。それとも持ってきた分で、基本的には帰宅までは十分足りているという状況なんでしょうか。

子どもたちはとても足りません。暑い時期は空っぽになってしまうので、これまでは常温の水道水を補給して、帰り際もきちっと満タンにして下校に入るといようにして、どんどん補いつつ1日やり過ごしていくという感じですね。

たまたま3校の校長先生と話をしていましたら、やっぱり7リットルという量に限界があるものですから、体調の悪い子であったり、特に低学年ですね、体力のない子、それから遠くまで帰っていきなさいいけない子、この子たちをできるだけターゲットにして使わせたいと。大きい子であったり、近場の子には申し訳ないけど常温で回してもらおうというような。1台ですので、そういうふうやりくりをして30日以降対応していきたいなというふうにお話をしておられました。

ウォッチの方はよかったですか。熱中症ウォッチの方。

警告音というのは私も聞いたことがないんですが。

伊藤教育総務課長

そうですね。

数に限りがあるものですから、大体160台ぐらいのご寄附になりますので、全児童生徒ということにはいかなかったものです。文化の森での活用や、特に屋外での活用とかで、特に子どもたちの熱中症対策ということで活用できればという思いでございます。

梅村教育長

よろしかったでしょうか。

それでは、続きまして学校教育課長より教育委員会行事予定等について報告をお願いします。引き続き、里山特認校についても、課長さんの方からご説明ください。

③ 教育委員会行事予定等

梅村教育長

それでは、続きまして学校教育課長より教育委員会行事予定等について報告をお願いします。引き続き、里山特認校についても、課長さんの方からご説明ください。

高橋学校教育課長

失礼いたします。まず、行事予定等につきましてでございます。お手元に7月分、8月分を配布いたしました。

7月の方をご覧ください。7月につきましては、前回の委員会にて説明を申し上げたところでございます。大きくは、いよいよ夏季休業に入っていきますよといったこととなります。7月17日が夏季休業日前の授業終了日ということになり、以降夏季休業に入ります。

県の欄をご覧くださいますとお分かりのように、たくさんの研修がございます。こちらは主に教員を対象とした研修でございます。また、先ほど教育センタ

一の方から報告もあったかと思いますが夏休み教員の指導力を高めるための研修を市の方でも準備をしているところでございます。

これを教員自身が、なりたい自分を目指して主体的に取り組み、チョイスできるようにしており、スキルアップを夏休みにしていただきたいと考えております。

また、児童生徒につきましても、中体連であったり、それからスピーチコンテストがあったり、その子の得意を発揮するといった機会が数多く準備されているところでございます。

続きまして8月でございます。こちら夏休みということになります。

先ほどの科学の広場であったりとか、プログラミング教室等でございます。また、特別支援教育に関わりまして判定会もでございます。こうしたことで、子どもたちの適正な指導についても専門家と知恵を絞り合って提供できるように進めてまいります。

なお、前回の教育委員会もご報告をいたしました、今年度より夏季休業日は8月31日までに延長してございます。これも暑さ対策の一つでございますが、そのようにして子どもたちの安全を守っていきたいと考えているところでございます。

行事予定につきましては、以上でございます。

続きまして、里山特認校といったものについて、先日の市議会で教育長も答弁いたしました。このことにつきまして簡単ではございますがご紹介させていただきたいと思っております。お手元にカラー摺りの資料をご準備いたしました。そちらの方をご覧ください。

議会の切り込み口では、減少していく山之上小学校のありようといったところ、それを危惧されるといった地域の声もあるということでございました。

この里山特認校は、これから申し上げる教育としての特色と、副産物的なものとして地域の活性化につながっていくのではないかと見越しての取り組みでございます。では、説明の方に入りたいと思っております。

学びの連続性が子どもの未来をつくる、という見出しをつけております。なぜ、この連続性を大事にしなければならないのかといったところでございますが、いわゆる小1プロブレムですね。保育園や子ども園での生活と、集団性とかを求められる小学校の生活、ここのギャップといったものが非常に子どもたちにとって支障になったのではないかと見越してございます。こうした環境の変化、また他校区からの子どもたちとの新たな人間関係といったもの。そうしたところによって不登校や学校になかなか足が向けられないといった状況を引き起こしているのではないかと見越してございます。これを何とか改善していきたいといったところがあってでございます。

はねていただきまして、上の段に初めの100か月ビジョン、といったものがあります。これは厚労省の方が中心になっております、いわゆる就学前の教育の大切さといったところと、そこからの小学校への接続、ここを大事にしていきたいといったところの考え方でございます。

この度、山之上地区をモデル園校として指定をし、いわゆる里山特認校といったものに取り組んでいこうとしているわけなんです、その理由は、まず第1には、山之上子ども園、山之上小学校は同一校区なんですけれども、それぞれ

が共通して里山での自然体験といったものに取り組んでいます。これは大きな共通の体験、連続性のある体験となり、なかなか無い財産であると捉えています。そうした共有の素敵な財産があるといったことと、この地区は子ども園1園と小学校1校という独特の環境でございます。ですので、この里山という教材を活用した、連携した教育を行っていくということで、子どもたちのたくましさから最近よく言われます非認知能力、自己肯定感であったり、教育調整であったり、レジリエンスであったり、そうしたものを継続的に高めていきたいといった構想でございます。

次のページに入ります。では、そうした連続性の中で、一体どんなことに取り組んでいこうかといったものが次の4つのアプローチでございます。

子ども同士のコミュニケーション。小学校から、それから子ども園からの交流もあります。また、小学校内での学年を超えた交流というところも考えております。

また、そうしたことを実現するための教職員の交流、子ども園と小学校の教員の合同研修等を考えています。

また、先ほど申しました里山保育、プログラム、カリキュラムですね。その連続性といったものを担保して、より確かに力を育んでいくことを目指していきたいと考えています。

そうしたことを実現するためには連携体制が欠かせません。我々教育委員会とこども未来課との連携、こうしたものも定期的な会議も行いながら活動していきたいという考えでございます。

これに取り組んでいく4つのアプローチとして設定しています。

続きまして、具体的にどんな活動に取り組んでいくのかといったところでございます。ただ、これにつきましては、これから煮詰めていく段階でございますので一例としてお示したという形で捉えていただきたいと思います。とっております。

子ども同士のつながりといったところでは、年長のうちから小1、小2の具体的な生活イメージを持てるようにしていきましようとか。それからよくあるのは年長さんと小6の交流ですが、実際には6年生が卒業しちゃいますので、入学後、最上級生となる現在の5年生との交流などを充実させていくといいのではないかとといった構想もございます。

教職員のつながりとしても、相互の教育活動に参加することで相互理解を深め、何が必要なのかといったところを共有しながら、カリキュラムとか具体的な指導のあり方といったところを検証していけるようにしていきたいという考えでございます。

先ほど申しましたが、これらは現段階での我々の一案でございます。実際の現実面を捉えながら必要に応じて考えていただくと。そのあたりは学校や子ども園と我々市教委の方もこども未来課とも連携しながら具体化をさらに図っていきたく思います。

最終ページの上の段でございます。いわゆる里山特認校は何ぞやといったところです。

先ほど來說明しております里山教育、里山保育といった教育の内容がメインです。それともう1つでございますが、それを実現するために必要な、子どもたちの学べる場を整えるためのシステムです。

今、考えていることとしましては、現在、各地域には指定学校区といったものが定められております。ただ、山之上地区の里山特認校としましては、山之上子ども園に在籍しているお子さんの中には他の校区の方から通っていらっしゃる園児の方がいらっしゃいますが、そうした方であっても、この学びの連続性をぜひ受けていきたいといった場合には、山之上小学校区にお住まいでなくとも山之上小学校に上がれるような、指定学校区を柔軟にできるようなシステムを考えております。なぜそれがいいかと申しますと、いわゆる里山教育といった学校の教育方針にも既に賛同していただけているものといったこととなりますので、学校の教育活動、それから学校を核とした地域活動にも、より参加いただけるのではないかとという地域も含めたメリットも考えているところでございます。

ただし、他校区から通っていただくといった場合は保護者の責任と負担で通学をしていただくということと、それから原則として年度当初から卒業まで在籍をすることといったところが必要であると考えております。

ただ、この内容につきましては、現段階での案でございます。柔軟な指定学校区の扱いについては後押していきたいと思っておりますが、下の方につきましては、こども未来課との検討もあるかと思っております。現段階ではこの案というふうに考えているところでございます。

最後でございますが、山之上地区での里山特認校はここまでの説明で終わるわけですが、里山はないけれども各小学校区でも園と学校がつながって、大事にしていける汎用性のある能力とかいったものがあるんじゃないかと考えております。この里山といったもののつながりの中での、共有する体験活動を通して分かってきた指導のノウハウであったり、考え方といったものをぜひ美濃加茂市内の他の小学校区にも広げていきたい。いわゆる山之上モデル、この中のエッセンスを他の校区にも広げていきたい。ですので、里山特認校といったことについては山之上ということになりますが、そこでの学びについてはモデル園校の推進プランとして美濃加茂市中に広げていきたいといった展開も考えているところでございます。

以上でございます。

梅村教育長

ありがとうございました。

モデル園校の推進プランにかかる願いであるとか、現段階での方向性について説明をいただきました。

一通り、教育委員会からのご説明が終わりますので、ただいまの里山特認校制度に関わってでも結構ですし、全体を通して、あるいは他の教育テーマでも結構ですけれども、最後にお一言ずついただきながら会の方を結びたいと思っております。よろしくお願いします。

安藤様、よろしいでしょうか。

安藤委員

あじさい子育て相談の方になりますけれども、実は先ほどまで美濃加茂市の子ども子育て委員会に出席しまして、まさに教育委員会の方からあじさい子育て相談の件数が減ってきているという発表があつて、それはなぜなんだとい

う検証を行ってきて、やっぱり幼稚園・保育園と小学校の連携ができてきたということが原因じゃないかということになって。

今までは小学生の段階で、この子もうちょっと発達支援かなとかそういうのがあったけれども、今はもっと早い段階、早期の発見でカナリアの支援が増えてきていて、そこで訓練があるから小学校の相談が減ってきているみたいな発表があったんです。だから連携が取れてきているのかなというのをすごく感じて、皆さん「いいな」という話をされていましたというご報告です。

梅村教育長

ありがとうございます。

大変ありがたい情報をいただきましたが、そのあたり井上先生どうでしょうか。

井上センター次長

今年度、担当の藤井なのですが、保育園の方にほぼ毎日午前中、顔を出させていただいています。保育園の保護者の方に、ご相談があったら、というような連絡も今年度させていただいて、保育園の保護者さんからの子育てについての相談も結構あるということです。早い段階での就学に向けた親さんの関心も高まっているのかなということもあると思いますし、今親さんたちの情報も早いと思いますので、そういったものに今後に対応していきたいなというふうに思っております。

梅村教育長

接続においては、子どもたちはもとより、保護者の方々の安心感とか有用な情報というものが届きやすくなりつつあるというところでしょうかね。ありがとうございました。

榊間委員どうでしょうか。

榊間委員

今の山之上小学校のことですけど、山之上保育園に入っている子だけが山之上小学校に学区外からでも行けるという。例えば小学校で他の学校に居るけれど、今の伊深とか三和のように山之上小学校に入りたいという人は対象ですか。

高橋学校教育課長

イメージとしては三和小学校とか伊深小学校の小規模特認校のシステムが頭に浮かばれているかなと思っているんですが、小規模特認校とは一線を画しておりまして、基本的には他校区から山之上小学校に通う場合は前提として山之上子ども園を卒園したことが条件になります。

小人数の学校できめ細かな指導を受けたいとか、のびのびと自分の表現を出していきたいというところで小規模特認校を選んでいたと思うんですが、今回は教育の内容として、この教育を受けたいという方が入っていく新たな試みといったことで書いていますので、おっしゃられたとおりでございます。

榊間委員

実際、保育園に入るときには、希望のところに入れないとかいろいろあって、どういう方針だからその保育園に行きたいという基準では保育園が選べない状況にあると思うんです。その時に、本当は山之上子ども園でそんな風と一緒に育っていつてもらいたかったなと思う方は、もうそこで希望とは違うことに

なったりすることもあると思うんですね。保育園に入る段階で選べることにについては、多分こども未来課の制度の基準が必要になってくるのではないかなという風に考えます。幼稚園なんかでも抽選だったりするので、結局市外の幼稚園に行くしかなかったり。

また、ちょっと別の話ですけども、全部の園が里山教育をしたいということを聞いていると、非認知能力を高めるための保育園でありたいというようなことをやっていきたいという話がありましたが、それも学区の保育園が前提ではないんですね。やっぱり希望していても、自分の学区内にある保育園ではなくて遠くの保育園に行かなければならなかったりするという人も結構いらっしゃるんで、すごく難しいなというふうにも思います。ですから、学区外の保育園であろうと学区内の保育園であろうと、小学校の先生が幼児教育ってそんなふうになっているということをよく知ってもら。だから、初任者の先生の保育園実習はありますけど、そうじゃなくて、上の方の人にも行ってもらえば、ギャップがなくなってくるのではないかなということを考えています。

高橋学校教育課長

ありがとうございます。

榊間さんが言われたことって本当に大事だなと思っています。入園の審査は我々でも内容をつかみかねるところもありますので、十分にこども未来課と連携をして、こども未来課を中心に考えていただくことは欠かせないことだと思っています。

多くの方の願いを拾えるようなシステムになっていくといいと思いますので、少なくともスタート時点のシステムはカチッと作るわけですが、現実に応じたアジャストをどう図っていくのか、そういったところも含めながら検討を継続していくことが必要だなと改めて思いました。

後半言われました、いわゆる保育の重要なエッセンスですよ。活動だけで判断するんじゃなくて、その活動に込められた育てたい力であったり、大切な内容ですよ。そうしたことにこそ目を向け、そこに子どもの発達とか成長があるんですよ、という視点をいかに小学校と共有できるかってこれは僕もとても大事なことだと思います。この事業を通してそうしたものがさらに明確に見えてくるような広め方もできるといいなと思っていますし、保育の内容が教育の方にどうやってつながっているのか、このあたりも意識した接続のあり方といったところをさらに工夫を重ねていければといったことを思いました。

梅村教育長

ありがとうございました。

では、渡辺委員お願いします。

渡辺委員

では、3点ちょっとしたお話をさせていただきます。

まず、1つ目は5月の定例会会議録についてなんですけれども、先月はまずもって欠席になり、本当に申し訳ございませんでした。この次第を送っていただいて、会議録を拝見させていただいて、実際に5月は欠席だったんですけども、会議の内容がよく分かるようにまとめてありました。特に自分が事前に質問させていただいたことも、ちゃんと会の方でお諮りいただいたりとか、それに対する回答をしていただいたということも丁寧に記載をされていて。欠席だっ

ただけで出たように内容が把握できて、素晴らしい議事録だなというふうに思いました。ありがとうございました。

2点目なんですけども、最初に教育長がお話しされたところで小学校の火災という話。私も車の運転しながらラジオで聞いてたんですけど、ラジオの情報だと、何年生かは復旧が間に合わなくて他の学校に行かなきゃいけないというような状況ということで、せっかくの同じ釜の飯を食うという中で、このようなことが災害によって発生するというのは本当に残念なので、可茂消防とかも動いてらっしゃるという話だったけども、やっぱり台風もありますし災害に対する対策というのはより徹底というか、考えられるべきだなと思いました。

最後、3点目なんですけど、これも先ほどお話に出た井戸アビゲイル風果さん。たまたま、陸上競技場の大会の翌日の朝に、弊社に大使としてちょっとだけ寄られるという話を事前に聞いておりましたので興味津々で見えていたら、まさかの本当に今年も2連覇ということで。すごい結果を残されて、翌朝すごく清々しい笑顔でいらっしゃいました。たまたまご縁なんですけども、私が太田小学校のPTA会長を仰せつかっているときに彼女も在校生で、卒業式の姿なんかも拝見しておりました。その後、教育委員を拝命してからも、やっぱりあじさい賞とかで常にすごい成績を残されていたということも思い出しまして。それが今25歳になれたのかな。すごく素敵な大人の女性に成長されている姿を見まして、素晴らしいことだなというふうに思いました。

彼女は特別に結果を残せたということだと思いますけど、同じように他の子どもたちも素敵な大人の成長していると思うんですけど、こういった一貫性のある流れの中でそういった人たちがどんどん育っていくといいなと思った1日でした。

以上です。

梅村教育長

ありがとうございます。

では、中西さん。

中西委員

今、小規模特認校と里山特認校とがちょっとダブっちゃいましてあれですが、長い流れの中で特色ある形でぜひ成功していただきたいと心から思います。

今の井戸さんの活躍もですが、この間、少年の主張で子どもたちも一生懸命考えて発表してくれているんですが、男子が1人だけで。ぜひ男子も活躍してくれたらありがたいなと思っております。

火事のことがありますが、美濃加茂市では救助袋とかは全部設置はされているんですかね。

高橋学校教育課長

なにかしらの避難用具がございます。

中西委員

この間の事故のあった学校も1年で11回の訓練というようなことでしたので、美濃加茂市もぜひお願いして、無事を確保をしていただきたいと思います。

梅村教育長

ありがとうございます。
では、武田委員さん。

武田委員

この山之上小学校のモデルも、本当に幼保小の連携ということがずっと言われてきた中で、1つのロールモデルとして、里山というキーワードがあって、とても進めやすいんだろうなと思いながら、人数が今どのくらいいらっしゃるのかなと思いながら聞いておりました。その子たちが現在どのくらい山之上小学校に上がっていくのか。去年、人数がすごく少なかったように思ったので、そのあたりがどういうふうな人数になっていくのかなということが気になりました。

1つロールモデルができて、幼保小の連携が美濃加茂市のいろんな小学校、特性もみんな違いますし、多様性がすごくあって外国籍の子たちも多いです。そういうところでどういうふうに関連がされていくのかなというところ。

まず1つ、ここが成功することで、違うところにうまく広がっていくヒントができたらいいなかなというふうに伺っておりました。

それともう1つ、私は東中校区に住んでいるんですけども、子どもさんが帰るときとか、当たり前で2列、道いっぱい自転車というのがすごく見られます。ヘルメットもかぶっていたりなかったり。これは、基本的に言われてもできない子どもたちなんだろうなと思うんですけども、自転車取り締まり対象ではないんですけども、やはり事故とか多くなってくると思いますので、そこはもう少し学校と連携していただけたらいいのかなと思いました。

以上でございます。

梅村教育長

数字の部分についてはどうですか。

高橋学校教育課長

ありがとうございます。

現在、山之上小学校の児童数は79名でございます。山之上子ども園に今年度在籍しているお子さんは年長さんで16名、その中で山之上地区は7名、他地区が9名といった状態です。同じく、年中でいきますと総園児数が13名、山之上地区4名、それ以外は9名。年小でいきますと全部で17名、山之上地区は2名、それ以外は15名。ですから地区内だけで見ますと先細りが著しい状況になっています。

一方で、里山保育といったところをご存知で、それを求めて入園されているという方も多い状況でございます。仮にですが、里山特認の制度を使わない場合、山之上地区の子だけが入学するといった場合、5年後でいきますと、2031年は現在79名が57名となります。さらに5年経った10年後、2036年には全校児童の方が30名と、そういったことが推計として出ております。本当に少人数といったところの厳しさがございますので、この制度がうまくいって児童が集まってくるといいなと思っております。

梅村教育長

ありがとうございました。よろしかったでしょうか。

(6)その他

梅村教育長

それでは、最後にその他、事務局から何か連絡ありますでしょうか。
では、次回の日程を確認します。教育総務課長お願いいたします。

伊藤教育総務課長

次回7月定例会の開催ですが、こちらに記載のとおり、7月29日水曜日、午後3時から。会場はここ生涯学習センター2階203ということで、今度はあちらの会場となっております。8月定例会の開催につきましては、現在考えておりますのは8月25日火曜日午後2時からを予定しております。今回、スタートが2時からということを考えておりますのは、昨年度4回開催させていただきました総合教育会議、市長さんと教育委員さん皆様との地域の教育について話し合う機会を、今年度につきましても3から4回ほど開催をしたいと考えております。できましたら、同日の方が皆様も調整がしやすいのかなということを思っておるところでございますが、その第1回は8月25日にやらせていただきまして、開始時間2時から総合教育会議として1時間半開催をいたしまして、その後5時半から。3時半から定例の教育委員会を1時間半ぐらい開催できたらなと思っておりますが、皆様のご予定はいかがでしょうか。またテーマにつきましては現在調整中ですが、今のような里山特認校のような話を、こども未来課とか、市長の意向とか、そういったものを確認しつつ教育委員皆様との意見交換をできたと考えておりますが、また決まりましたらまたご報告させていただきたいというふうに考えております。

以上です。

梅村教育長

それでは、これをもちまして教育委員会令和8年6月定例会を閉会いたします。

皆様、どうもありがとうございました。

閉会 午後5時20分